



新型コロナウイルス感染症 について

2022年3月
福山市 保健予防課

新型コロナウイルス感染症について、あらためて確認し、感染予防と感染拡大防止に努めましょう。

新型コロナウイルスとは・・・

1 ウイルスについて

コロナウイルス → 一般のかぜの原因ウイルス
→ 重症急性呼吸器症候群(SARS)
→ 中東呼吸器症候群(MERS) など

★ 新型コロナウイルス(SARS-CoV2)も、コロナウイルスのひとつ

「エンベロープ」という脂質からできた二重膜を持つ粘膜などの細胞に入り込んで増殖する。

特徴

物の表面に付着したウイルスは時間の経過と共に壊れるが物の種類によって24~72時間程度感染力をもつと言われている。

～厚労省Q&A(一般)～

まずは、ウイルスについてです。

コロナウイルスには、一般の風邪の原因となるウイルスやサーズ、マーズのウイルスなどが含まれており、新型コロナウイルスは、このコロナウイルスの一つで、コロナウイルスが変異してできたものを言います。

新型コロナウイルスの特徴ですが、エンベロープという膜を持つウイルスで、ウイルス単体で増えることはできず、粘膜などの細胞に入り込んで増殖します。

ウイルスは健康な皮膚には入り込むことができず、表面に付着するだけと言われています。表面に付着したウイルスは時間が経てば壊れますが、物の種類によって24~72時間程度、感染力をもつと言われています。

コロナウイルス感染症	感冒	SARS	MERS	COVID-19
原因ウイルス	ヒトコロナウイルス(4種類)	SARSコロナウイルス	MERSコロナウイルス	SARS-CoV-2
発生年	毎年	2002～2003年	2012年～	2019年～
流行地域	世界中	中国広東省	サウジアラビアなど	世界に拡大中
宿主動物	人	キクガシラコウモリ	ヒトコブラクダ	不明
感染力 (基本再生産数)	1人から多数	1人から2～5人 *スーパースプレッ ダーから多数への 感染拡大あり	1人から1人未満 *スーパースプレッ ダーから多数への 感染拡大あり	1人から1.4～2.5人と 試算
潜伏期間	2～4日	2～10日	2～14日	1～14日と推定
感染症法	なし	2類感染症	2類感染症	新型インフルエンザ等 感染症

～国際医療研究センター～

コロナウイルス感染症についてまとめた表です。

この中で、新型コロナウイルス感染症はCOVID-19と言われるものです。

それぞれの特徴を確認してみましょう。

2 感染経路

飛沫感染 + 接触感染

飛沫感染

感染者の咳・くしゃみ・会話などで排出される飛沫(直径約5 μ m以上)と一緒にウイルスが放出され、周囲の方がそのウイルスを口や鼻などから吸い込んで感染。

接触感染

感染者がくしゃみや咳を手で押さえた後、その手で物に触れるとウイルスが付着する。他の人がそれを触るとウイルスが手に付着し、その手で口や鼻を触ると粘膜から感染。

～厚労省Q&A(一般)～

次に、感染経路についてです。

新型コロナウイルス感染症の一般的な感染経路は、飛沫感染と接触感染です。

閉鎖空間で、近距離で多くの人と会話するなどの環境では、咳やくしゃみなどの症状がなくても感染を拡大させるリスクがあるとされています。

飛沫感染は、感染者から咳、くしゃみ、会話などの際に排出されるウイルスを含んだ飛沫・エアロゾル(飛沫よりさらに小さな水分を含んだ状態の粒子)の吸入で感染します。

通常は感染者に近い距離(1m以内)で感染しますが、エアロゾルは1mを超えて空気中にとどまりうることから、換気不十分な環境などでは、感染拡大するリスクがあります。

接触感染に注意！

新型コロナウイルスの感染経路として
飛沫感染のほか、**接触感染**に注意が必要です。

人は、“無意識に”顔を触っています！



そのうち、目、鼻、口などの**粘膜**は、
約**44パーセント**を占めています！

(参考文献)

Yen Lee Angela Kwok, Jan Galton, Mary-Louise McLaws. Face touching: A frequent habit that has implications for hand hygiene. Am J Infect Control. 2015 Feb 1; 43(2):112-114
(<https://www.ncbi.nlm.nih.gov/pmc/articles/PMC7115329/>)

～厚労省「健康や医療相談の情報」～

ウイルスは、身の回りの様々な所に付着している可能性があります。

3 接触場所の消毒

不特定多数の人が触るもの、

(例) ドアノブやパソコン、

電気のスイッチ、エレベーターのボタンなど

ウイルスが付いているリスクがあることを念頭に、
ゴム手袋（使い捨てできるもの）をし、
アルコールや次亜塩素酸ナトリウムを用いて丁寧に、
ペーパータオルなどで拭き取り消毒する。



消毒する際には、人が触れるものには
ウイルスが付着していることを念頭に、使い捨てできるゴム手袋をし、
アルコールや次亜塩素酸ナトリウムを用いて、
丁寧にペーパータオルなどで拭き取りましょう。
噴霧での消毒はウイルスが舞い上がってしまうのであまりおすすめしていません。

消毒液の濃度等、具体的な方法については、
福山市保健所のホームページに掲載している
「福山市新型コロナウイルス感染症対策ガイドライン」をご参照ください。

<消毒終了後の注意事項>

- 使用したマスク、手袋、ペーパータオルなどは、速やかにゴミ袋に収納し、袋口をしっかり結んで廃棄する。

※マスク、手袋を取り外す時は、汚染された面が自分の手指や体に触れないよう注意する！！

- 取り外した後、必ず石けんで手洗いするか消毒用アルコールで手指消毒を行う。



また、消毒後の処理(後片付け)についても注意が必要です。

せっかく消毒をした後に、再度、汚染されることがないように使用したマスク、手袋、ペーパータオルなどは速やかにゴミ袋に収納し、袋口をしっかり結んで廃棄しましょう。

また、マスクや手袋を取り外す際は、汚染された面が自分の手指や体に触れないよう注意しましょう。

4 検査

検査種類	抗原定性検査	抗原定量検査	PCR検査
調べるもの	ウイルスを特徴づけるたんぱく質(抗原)	ウイルスを特徴づけるたんぱく質(抗原)	ウイルスを特徴づける遺伝子配列
精度	検出には、一定以上のウイルス量が必要	抗原定性検査より少ない量のウイルスを検出できる	抗原定性検査より少ない量のウイルスを検出できる
判定時間	約30分	約30分+検査機関への搬送時間	数時間+検査機関への搬送時間

★検査の特徴をよく理解して対応することが必要★

～厚労省「新型コロナウイルス感染症に関する検査について」～

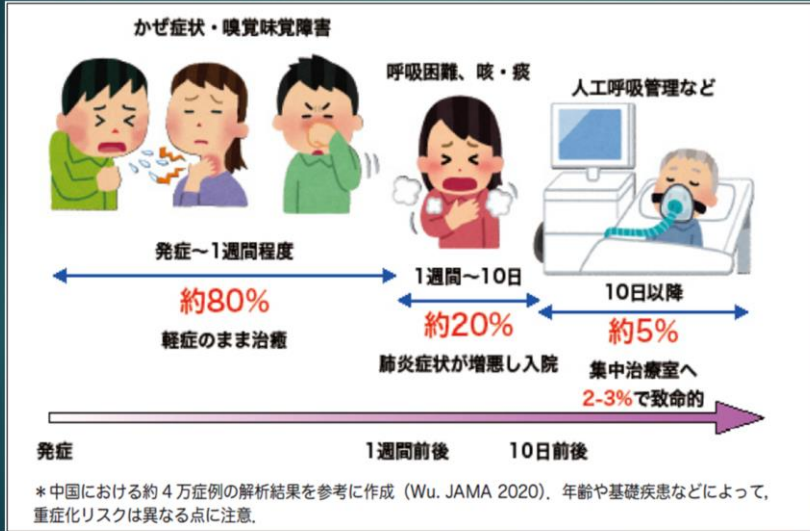
続いて、検査についてです。

新型コロナウイルス感染症を診断するための検査には、PCR検査、抗原検査等があり、いずれもウイルスに感染しているか調べるための検査です。

検査キットも次々と開発されていますが、承認されているものなのかを確認し、それぞれの検査の特徴をよく理解しておく必要があります。

また、この表には書いていない抗体検査ですが、過去に新型コロナウイルス感染症にかかったことがあるかを調べるためのもので、検査時点での感染を調べる目的に使うことはできません。

5 症状・経過



★接触後の健康観察
は2週間必要

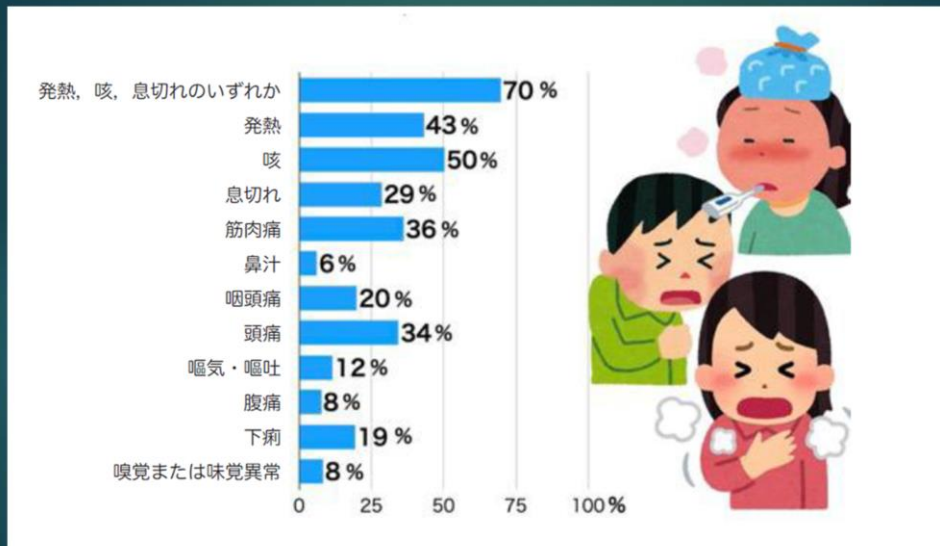
～新型コロナウイルス感染症診療の手引き・第5.3版～

症状や経過についてです。

スライドの図は、厚生労働省が出している「診療の手引き」に載っているものです。

この手引きには、症状のことのみでなく院内感染対策や退院基準のことなども載っていますので、また調べてみてください。

6 新型コロナウイルスの症状の頻度



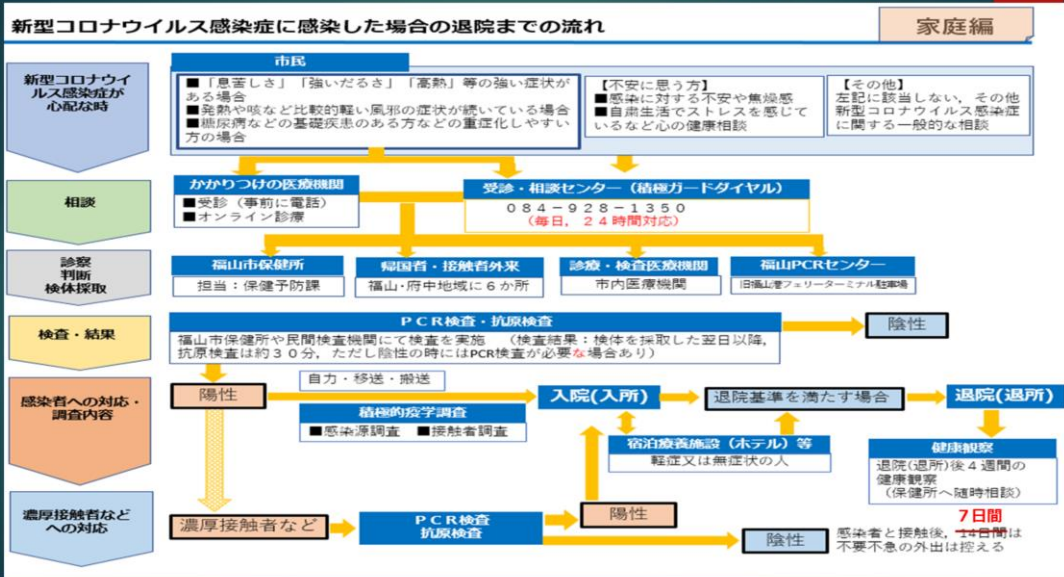
～新型コロナウイルス感染症診療の手引き・第5.3版～

新型コロナウイルス感染症の症状の出現頻度です。

発熱, 咳, 息切れのいずれかの症状があるものが70%を占めています。
症状は, 感染している変異株や人によっても異なり,
無症状の方(無症状病原体保有者)も多くみられます。

7 陽性判明から療養解除までの流れの一例

(※医療機関で検査した場合を除く)



つぎに、陽性判明から療養解除までの流れの一例をみてみましょう。

保健所では、陽性の届出受理後、感染者に対して積極的疫学調査を行い、濃厚接触者、接触者に対してPCR検査を実施しています。

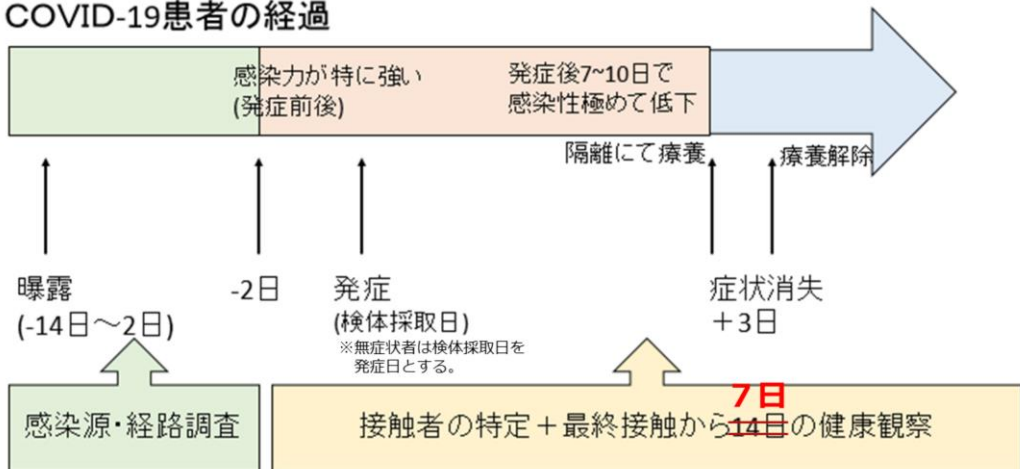
また、感染者については、症状等を確認後、関係機関と連携を図り、療養先を決定し、退院基準・療養解除基準を満たすまで療養が必要です。

感染者について、届出受理から療養解除まで、管轄する保健所で管理、支援していくようになります。

8

感染源・感染経路調査と感染性を有す期間

COVID-19患者の経過



新型コロナウイルス感染症において、陽性者からの聞き取りの際、発症日がいつであるかがポイントになります。

潜伏期間は14日間、周囲への感染性をもつのは発症2日前からとされているので、発症14～3日前の行動歴は感染源調査(図:緑色)、発症2日前からの行動歴は接触者の特定のために必要な情報になります。

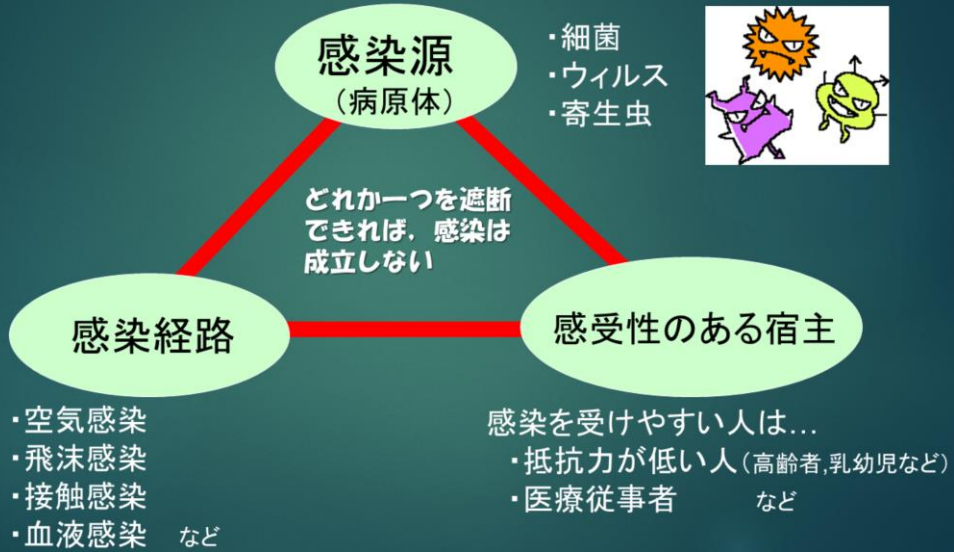
9 濃厚接触者と接触者の定義

【新型コロナウイルス感染症における用語の定義と対応】				
		2021年11月		
用語	定義	結果	対応	
濃厚接触者	<ul style="list-style-type: none"> 「感染者」と同居あるいは長時間の接触（車内、航空機内などを含む）があった者 手で触れることのできる距離（目安として1m）で、必要な感染予防策なしで、「感染者」と15分以上の接触があった者 	全員にPCR検査を実施	陰性	「感染者」との最終接触日から 14日 ^{7日} 間は、毎日の検温などの健康状態の確認を行うことと自宅待機をお願いする。 ※感染者の同居家族も同様
			陽性	感染症指定医療機関など入院
濃厚接触者の家族	濃厚接触者の家族は、濃厚接触者の検査結果が判明するまで自宅待機。結果陰性であれば、その後の待機は不要。			
接触者	濃厚接触者ほどではないが、「感染者」と接触があった者	全員にPCR検査を実施	陰性	職場等に復帰し通常生活可能。 ただし、「感染者」との最終接触日から 14日 ^{7日} 間は、毎日の検温などの健康状態の確認をお願いする。 マスクの着用などの感染予防対策は継続し、体調不良を認める際には、出勤等は控え、保健所に連絡してもらう。
			陽性	感染症指定医療機関など入院
接触者の家族	接触者の家族は待機不要。ただし、健康観察をお願いする。			

新型コロナウイルス感染症に感染した方と感染可能期間に接触をした方は、接触状況により、濃厚接触者と接触者にわかれます。

濃厚接触者、接触者の定義と対応についてはこの表を参考にしてください。

10 感染症予防



つぎに、感染予防についてです。

まず、感染源、感受性のある宿主、感染経路の3つがそろって感染症は成立します。

逆に言うと、このどこか一つを断つことができれば感染症は発生しません。

まず、感染源を断つには、消毒などが必要となります。

次に、感受性のある宿主にならないために、予防接種を受けたり体力をつけることも大切です。

最後に、患者の隔離や手洗い、スタンダードプリコーション(標準予防策)などで感染経路を断つことができます。

11 感染拡大防止のため新しい生活様式を取り入れよう！

①一人ひとりの基本的感染対策

- ・ 人との間隔はできるだけ2 M（最低1 M）空ける。会話をする際は真正面を避ける。
- ・ 外出時，屋内にいるときや会話をするときは症状がなくてもマスクを着用する。
- ・ 帰宅したらまず手や顔を洗う，すぐに着替えてシャワーを浴びる。

また，感染拡大防止のために，新しい生活様式を取り入れる工夫をしましょう。

まず、①一人ひとりの基本的感染対策についてです。

②日常生活を営む上での基本的な生活様式

- ・まめに手洗い・手指消毒
- ・咳エチケットの徹底
- ・こまめに換気
- ・毎朝の体温測定、健康チェック



つぎに、②日常生活を営む上での基本的な生活様式についてです。

③働き方の新しいスタイル

- ・ローテーション勤務
- ・時差通勤でゆったりと
- ・会議はオンライン
- ・対面での打ち合わせは
換気とマスク 等



また、③働き方の新しいスタイルについてです。
職種や業務内容により、テレワーク等の活用も効果的です。
それぞれの職場の状況にあわせて、環境整備や勤務体制を見直してみましょう。



★「福山市新型コロナウイルス感染症対策ガイドラインー職場編ー」

★「福山市新型コロナウイルス感染症対策ガイドラインー家庭編ー」

※福山市保健所のホームページにガイドラインが掲載
されています。

内容をしっかり確認し、感染拡大防止に努めましょう!!!

福山市では、
「福山市新型コロナウイルス感染症対策ガイドラインー職場編ー」と
「福山市新型コロナウイルス感染症対策ガイドラインー家庭編ー」を
福山市保健所のホームページに掲載しています。
内容をしっかり確認し、感染拡大防止に努めましょう。